

「ココロの動画」制作ワークショップの公開上映会開催！

～3月25日（土）メディアコスモスで若者が制作した動画の上映会を開催～



ナラティブ・ラボ（代表：山本卓司・岐阜市）は、1月から毎週開催しているワークショップ「DSTプロジェクト」で参加の若者が制作した動画の上映会を3月25日（土）にみんなの森ぎふメディアコスモス（岐阜市）にて開催する。毎回行われる自己紹介やドキュメンタリー映画鑑賞をきっかけとした意見交換・コミュニケーションのワークや「自分」をテーマにしたアートワークと意見シェアのワークを行い、都度

心の中に生まれた気づきや思いをまとめ自分を表現する「デジタルストーリーテリング」（ココロの動画）を制作し、上映会で意見をシェアする。この事業は「岐阜県孤独・孤立対策官民連携事業」の助成を受けている。

■プロジェクトの主旨

今、若者の「生きる力」を育む教育が求められています。自己肯定感が低く、安心・安全な居場所が無いために孤立感を抱く若者が多く見られます。SNSでのコミュニケーションが進む中で、自己表現や他者理解、信頼関係を作ることが苦手です。一方で教育現場では、アクティブラーニングの導入が進み、主体的な学びの方法論が模索されています。この「DSTプロジェクト」は共感と相互理解の場で自分の経験（＝ナラティブ）をテーマにマルチメディアを活用した「コミュニケーション」「創作」「表現」のアクティブラーニングです。教員・公認心理師・キャリアカウンセラー・人材教育の専門家などが集まり参加者を支援します。

■見所

16歳～30歳の若者6名が、連続6回のワークショップに参加し、その内容をもとに「デジタルストーリーテリング」（ココロの動画）を作成。ひきこもりや不登校などそれぞれ孤独・孤立の状態に直面しながら現代を生きる若者たちが、心の中を以下のプロセスで表現しました。

- ①ワークショップ参加を通して自分の心の動きを記録する。
- ②その記録を文章にまとめる。
- ③完成した文章を自分の声でナレーション録音する。
- ④音声に写真やイラストなどの静止画を付けて動画に仕上げる。
- ⑤動画を上映会でシェアする。

動画制作過程で表現を繰り返すことにより内面のアウトプットと自己客観視が進み、また参加者同士やスタッフとの対話も影響を受けていきます。「自分が見える・お互いが見える」DSTのワークを通して変化していく姿も上映会で明らかになります。

■ナラティブとは

「ナラティブ」は語り手自身が紡いでいく自分の物語です。口述によっておこなう、時の流れと事柄の説明を含んだ生活・人生・生き方の物語であり、自己の世界観を読み解くための物語です。

自己の物語を他者に語ることには大きな意味があります。自分の心の動きを把握し内省しつつ、対話によって他者に自分の心の内を表現する。この一連の動きが正のスパイラルを生み、自己の物語として思考が整理されます。この思考の整理が、抱えている問題を別の解釈に置き換え対処が可能になる、創造的思考が生まれるなど、さまざまな効果を生むのです。このプロセスを、対話を重視した探究型学習とマルチメディアを活用したDST（デジタルストーリーテリング）によって行うのがわたしたちナラティブ・ラボの特徴です。

▼ナラティブ・ラボ： ホームページ <https://narrativelabo.com/>

■開催概要

主催：ナラティブ・ラボ

日時：令和5年3月25日（土）17：30～19：00（予定）

場所：みんなの森メディアコスモス1F かんがえるスタジオ

このプロジェクトは「岐阜県孤独・孤立対策官民連携事業」の助成を受けています。

■本件に関するお問い合わせ先

ナラティブ・ラボ（岐阜開成学院内）

担当：山本卓司

住所：岐阜県岐阜市金宝町 2-5-1 クニイビル4F 電話：058-215-9432